

資源管理に必要な情報の提供事業

漁海況予報関連調査

中瀬優・岡田 誠・程川和宏・藤原正嗣

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週 1 回発行した。

結果の概要

詳細については平成 22 年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路

黒潮流路は、規模の大きな B 型から平成 22（2010）年 4 月中旬に C 型へと移行した。5 月中旬には D 型を経て、N 型へ移行し、その後は 7 月末まで N 型で推移した。7 月末に一時的な B 型となり、8 月中旬まで続いたが、8 月中旬から N 型基調となった。9 月、10 月は小冷水渦の通過に伴って、一時的に小規模 B 型のような流路も出現したが、概ね N 型基調が続いた。11 月上旬には小規模 B 型となり、中旬に C 型、下旬には N 型へと移行した。12 月上旬には小規模 B 型から C 型流路へ移行した。C 型流路は持続することなく、蛇行部は東進し、1 月には N 型となった。2 月中旬から B 型基調へ移行し、3 月は中旬に一時的な C 型、3 月末には小蛇行の東進に伴って W 字状の流路となった。

潮岬沖の黒潮は、4 月上旬～7 月まで接岸傾向で推移した。7 月上旬～中旬に黒潮小蛇行の通過に伴って一時的にやや離岸したが、7 月下旬に接岸し、平成 23（2011）年 1 月下旬まで接岸傾向が持続した。黒潮は、1 月下旬～2 月中旬にかけて 33° N 付近まで離岸したが、2 月中旬からはまた接岸傾向に戻った。

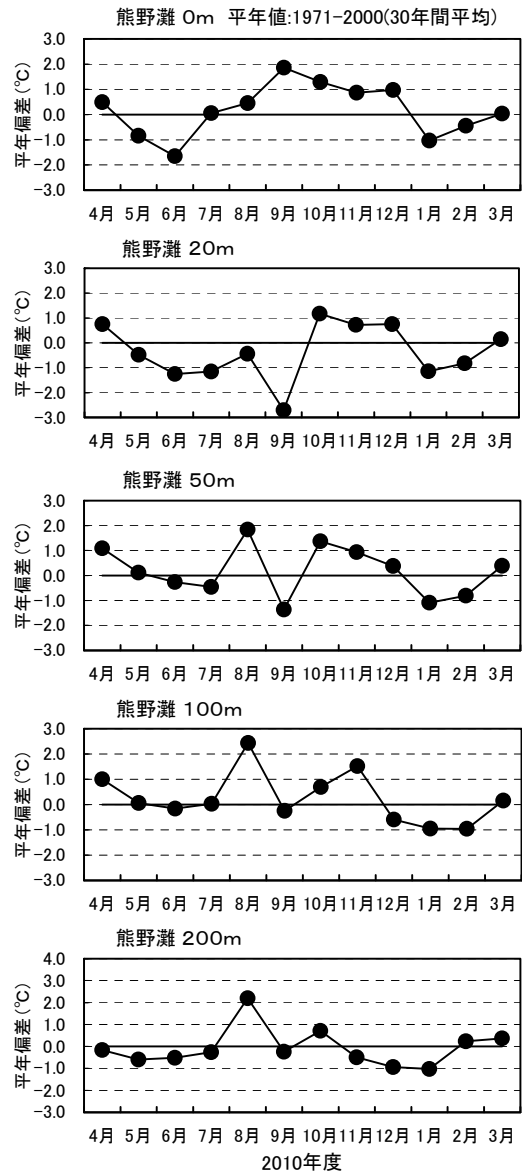


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の 2010 年度 年平均偏差

2. 熊野灘の海況

熊野灘沿岸の水温は、冬季から低水温傾向で経過したが、4 月には表層は平年並み、50m 層は高めの水温となった。5 月には表層を中心に低水温となり、6 月も表層で顕著な低水温傾向が見られた。7 月の表層水温は平年並み～やや高めとなったが、下層は低めであった。8 月の

表層水温は岸沿いで高め、沖合は低めで、下層ではどの測点においても、高め傾向であった。9月上旬には猛暑の影響を受け、表層で高水温を記録した。一方で20m～50m層は低水温傾向であった。10月は表層では暖水流入時に高めとなった。11月、12月には、暖水波及時以外、概ね平年並みの水温であった。12月下旬から降温が進み、1月～3月にかけて沿岸部の表層水温は、低水温傾向で経過した。1月には全層で低水温傾向がみられ、2月上旬に暖水が波及するまで低水温は持続した。2月は、暖水波及時に一時的に沖合の表層水温が高くなったが、中旬以降は低めとなった。3月は中旬に一時的に平年並みとなったが、概ね低め基調で推移した。

浜島の定地水温は、4月上旬は平年よりやや低め、中旬には平年並みとなり、4月下旬～5月中旬はやや高めとなった。5月下旬～6月上旬は、やや低めで推移し、6月中旬は平年並みで経過した。6月下旬は平年より1～2℃高め、7月上旬は平年より2℃程度高め、中旬はほぼ平年並みで経過したが、下旬は梅雨明け後、再び2℃程高めとなった。8月上旬は平年より1.5℃高め、8月中旬は平年並みとなった。8月下旬～9月上旬は気温が高かった影響で2℃近く高めとなり、9月中旬は1.5℃程高めであった。9月下旬～10月上旬まではほぼ平年並み、10月後半はやや高めであった。11月上旬は1℃程度低めとなり、11月中旬～下旬は平年並みとなった。12月上旬は平年より高め、中旬はやや低めで経過し、12月末～1月上旬にはやや低めとなり、中旬以降1～2℃程度低めであった。2月上旬はやや低め、中旬には平年並みとなった。2月下旬～3月上旬は平年よりやや高めとなり、3月中旬以降は平年並みで経過している。

3. 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、表層では4月は平年並み、5月は平年より高めとなり、6月には平年よりやや低めとなったが、7月には高めとなった。8月は平年並み、9月は平年よりも4℃高く、かなり高めの水温となったが、10月、11月は平年並みとなった。12月は平年よりやや低め、1月は平年並みとなり、2月にはやや低めとなった。10mと底層では、4月、5月は平年よりやや高め、6月は平年並み、7月は平年並み～やや低めとなった。8月は平年並み、9月は平年よりやや低めの水温であったが、10月、11月は平年並みとなった。12月は平年並み、1月、2月は平年よりもやや低めであった。

塩分は、表層では4月、5月は平年よりもやや高め、6月は高めであったが、7月にはかなり低めとなった。8月、9月は平年より高め、10月以降は平年並みとなった。10mと底層では、4月はやや低めであったが、5月、6月は平年並み、7月は平年よりも高めとなった。8月は平年よりやや高め、9月、10月は高めであり、11月は平年並みであった。12月～2月は、全層で平年並みであった。

DO(溶存酸素)は表層では4月、5月は平年並み～やや低め、6月はやや高め、7月は平年並みであった。8～10月にかけては平年よりもやや低め、11月～2月は平年並みで経過した。10mでは4月、5月は平年並み、6月は高め、7月は平年並みであった。8月は平年並み、9月は平年よりもやや高めであったが、10月にはやや低めとなり、11月は平年並みとなった。12月は平年並み、1月にはやや高めとなり、2月は平年並みであった。底層では4月、5月は平年並み～やや低め、6月はやや高め、7月は平年並みで推移した。8～10月にかけて平年よりもやや低めであったが、11月～2月にかけては平年並みで推移した。底層の貧酸素水塊(DO 2ppm以下)は、7月～10月にかけて湾中央部を中心に広範囲に存在していたが、11月にはかなり規模が縮小しており、底層の貧酸素は解消に向かった。11月の観測時に見られた底層の貧酸素水塊は、12月には完全に解消していた。

白子の定置水温は3月中旬までは平年よりやや高めで経過したが、3月下旬～4月中旬にかけては平年並み、4月下旬以降、低めとなった。5月中旬にはかなり高めとなったが、5月下旬にはやや低めとなった。6月上旬は平年並みであったが、6月中旬以降、高めで推移した。6月中旬からやや高めで経過したが、7月中旬～下旬にかけて、やや低め～平年並みの水温となった。8月上旬～9月上旬までは高め～かなり高めで経過し、特に8月下旬～9月上旬にかけては、平年より3℃程度水温が高かった。9月中旬～10月上旬にかけてやや高めから平年並みまで水温は低下したが、10月中旬にはやや高めとなり、11月は平年並みとなった。12月～1月上旬にかけてはやや高めで経過したが、1月中旬～2月中旬にかけてやや低めとなった。2月下旬にはやや高めで推移した。

関連報文

三重県(2011):平成22年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)